

真のスタートとなる2014年!



昨年8月23日に、日本の研究チームが国際リニアコライダー（ILC）の国内候補地として、北上山地を選定。それを受け、具体的な課題調査が今後2、3年をかけて行われる中、地域住民を巻き込んだ受け皿の準備が重要になってきます。そこで、誘致に向けた現状や今後の活動について、岩手県政策地域部の担当者に話を伺いました。

北上山地が、国内候補地に

国際リニアコライダー（以下ILC）とは、地下1000メートルの研究施設で電子と陽電子を超高エネルギーで正面衝突させ、宇宙のはじまりから1兆分の1秒後の状態を人為的につくりあげるといふ計画。衝突によって生成されるさまざまな粒子を測定解析し、未知の素粒子発見など物理理論を究明していく世界的なプロジェクトです。

素粒子物理学の研究者で組織された「ILC立地評価会議」は、201



昨年10月のリン・エバンス氏らの視察時の様子

3年1月から具体的な国内候補地の調査をスタート。地形や地質などの技術的観点、電力供給などインフラを含む研究・生活環境等の社会的観点から調査を進め、8月23日に北上山地が国内候補地に選ばれました。

10月17日には、ILCの研究者でつくる国際推進組織リニアコライダー・コラボレーション（LCC）のリン・エバンス氏らが来県し、現地を視察。北上山地が世界の候補地のなかでも適地であり、今後は同地に一本化して検討を進めると明言しています。研究者によってILC素粒子物理学の研究地として認められた北上山地。同秋には、日本学術会議もILCを実現するための検討事項を具体的にまとめ、正式な提言として文部科学省に提出しました。

「文部科学省は今後さらに2、3年かけて詳細の調査を進め、誘致体制を完全に整えたうえで、政府としての結論を出すと思います」。

岩手県政策地域部首席ILC推進監の大平尚さんは、誘致に向けた真のスタートを迎えたことに、胸をなでおろします。

地元を受け皿づくりに向けて

北上山地が国内候補地として認められ、さらなる一歩を踏み出す今。ILC建設費は8700億を超えると言われますが、予算を世界各国がどう分担するのか、研究施設建設による自然環境保全の対策は万全か、



岩手県政策地域部首席ILC推進監の大平尚さん。「より機運を高めるためにも、他県と連携した周知活動に努めていきたい」と話します

研究者の生活環境をどう整えるかなど、さまざまな課題があるのも事実です。

「今、北上山地は世界中の研究者の注目を集めています。しかし、海外向けに発信できる情報が少ないのも課題の一つ。英語が通じるのか、家族と一緒にに行けるのかといった不安を現段階で払拭しなくてははいけません」と大平さん。

居住環境、教育や医療機関などの環境整備をはじめ、街づくりや地元への周知活動、それと共に海外に向けた「北上山地」の情報発信など受け皿としての整備は、官民一体となって取り組む必要があります。

幅広い周知に向け、岩手県では海外向けのホームページやパンフレット、動画制作など広報ツールの作製を進行中。周知活動を担当する岩手県政策地域部ILC推進担当主任・佐々木浩二さんは、「子ども達はもちろん、地域の人たちがILCに関心を持ってもらうことが大事」と話します。

メディア報道も増えつつあり、県



「やる気のある地元企業は応援したい」と、岩手県政策地域部ILC推進担当主任の佐々木浩二さん。地元企業からは、つくば市にある高エネルギー加速器研究機構(KEK) 視察などの問い合わせもあるとのこと

内の事業所からもILCに関する問い合わせが増えているとのこと。ILCの研究施設にどんな技術が使われ、地元企業の技術やスキルが活かされる可能性があるのか。参入できる企業の掘り起こしも含めて、来年度は、企業向けのセミナー開催を検討しているそうです。

計り知れない可能性

10数年後にILC建設が実現すれば、研究者やその家族を含め、5



幕張インターナショナルスクールの様子
2009年開校、総生徒数は約400名
敷地面積：約15,000㎡
校舎：木造平屋建て/延床面積3,644㎡

6000人が暮らす街が一つ生まれ、そこでは外国人が日常生活をし、地域の人たちと自然に交流する風景があるでしょう。あるいは、世界トッ

プクラスの研究者が地域に向いて出前講座を開いたり、子ども達が気軽に研究施設を見学することも当たり前になっていくかもしれません。

「盛岡周辺は研究者にとって通勤圏です。産業面でいえば、加速器部品製造などは県内全域の事業所において充分可能性があります。岩手にはお酒や乳製品など外国人に好まれる食材も多々ある。例えば、その食材を研究者がフェイスブックを通じて世界に発信することで、思わぬところに需要が生まれるかもしれない。ビジネスチャンスは計り知れませんが、ILC誘致は少子高齢化に伴う人口減少に歯止めをかける意味でも期待が大きい。それを理解していただき、地域全体で自主的な取り組みをする必要があります」。大平さんは、力を込めて話します。

一人ひとりが応援団に

1月1日付の岩手日報紙面によれば、同社が行った県政世論調査で調査対象者の68%が「ILC計画に関心を持つ」と回答しています。IL

C誘致に期待する効果としては雇用創出や新産業創出、地域の国際化や異文化交流が多くを占めているようですが、全世界的な「知の拠点」が岩手に誕生することは、子ども達の夢を育むうえでも大きな価値があるといえるでしょう。

岩手と世界をつなぐILCは、世紀をかけた国際プロジェクト。ILC誘致は、日本が世界をリードしていく千載一遇のチャンスであり、その一翼を担う立場にあるのは、他でもない地元岩手の住民です。次世代やその先まで広がる可能性を秘めたILC研究やその経済効果に関して、まずは一人ひとりが積極的に「正しい情報を知る」ことから始めてみませんか。

取材／「SANSAN」企画編集委員会



県庁の県民室や商工会議所にはILCに関するさまざまな資料があります